

文部科学省 令和3年度委託事業

「幼稚園の人材確保支援事業」実施報告

令和3年度3月

NPO 法人全国認定こども園協会宮城県支部

目次

- 1, 研究の概要と事業計画の背景
- 2, 令和3年度事業
 - ア、学生、現任者向け「WEB版せんだい保育マルシェ」
 - イ、WEB研修「メンタルふえす」
 - ウ、アプリを活用した
学生及び幼稚園教諭と施設のマッチング
 - エ、人材確保、離職防止に関するアンケート実施、並びにアンケート結果を踏まえたフリーペーパー等情報発信。
 - オ、オンラインセミナーの開催
 - カ、ICTイベント
- 3, 成果と課題

1, 研究の概要と事業計画の背景

令和3年度は新型コロナウイルス感染症のまん延が始まり2年目となる年でもあったため、本事業についてもどこまでの活動ができるかが未知数であった。一方でコロナ禍における保育現場の人材確保やその方法は大きく変容していた。

保育養成校では対面学習が出来ずオンライン学習が主流となり、また学習課程における実習の実施が非常に困難となっていた。実習実施が困難になった要因としては、もちろん新型コロナウイルスの影響によるものだが、その実施ハードルは想定以上に難しさがある。理由としては保育者養成校そのものの感染対策による実施の見送り、実施控えなどに輪をかけ、受け入れ施設側のコロナ対策の影響も多分にあった。受け入れ施設側は一定の行政基準によって制限がかけられていたが、より困難さが増した要因としては施設毎の価値観、考え方によっても受け入れの可否に大きな差が生まれたことも考えられる。そのためか養成校側では非常に慎重に事を運ばざるを得ず、結果実習実施に必要な以上のハードルと期間を要する結果となったのではないかと考えられる。その結果保育施設と養成校学生が“出会う”“関わる”機会が非常に少なくなり、学生は経験を積む機会が、保育施設側は学生獲得のきっかけを失うこととなった。

一方で、全国認定こども園協会宮城県支部（以下、当支部）が活動拠点とする宮城県においては、学生が県内で就職を検討する割合が増加するという傾向も聞かれている。これもコロナの影響と言われているが、感染者数割合が非常に多い関東圏ではなく比較的安全な地方や地元でも就職を希望するというものである。宮城の施設としてはうれしい状況ともとれるが、採用状況としては噂に聞く傾向ほどの増加は見込めていなかった。

令和3年度の人材確保に関わる状況背景としては以上のような情勢が大きく関係していたため、その中で実行可能な活動を検討する必要があった。

事業実施の活路としては“WEB”“オンライン”“ICT”がキーワードとなることが予想された。コロナ禍における上記3つについてはコロナ対応におけるプラスの変化、進化とともとることができる。また、コロナとは切り離しても、情報伝達、共有手段としても非常に効率的で効果的であることが証明されているため、コロナ禍における本事業実施についてもこれらの活用が必須である。また、上記の学生、保育施設双方で“失ったもの”を補うことが本事業の人材確保に効果を発揮するのではないかと予想される。それはマイナスの補填ではあるが、今後を見据えるならば、コロナ前よりもプラスに転じる可能性を秘めていると考えられる。そうした状況から、令和3年度の本事業はWEBを活用した情報発信とICT活用について、また養成校学生と保育施設のマッチングをテーマに事業を計画した。

2、令和3年度事業

ア、学生、現任者向け「WEB版せんだい保育マルシェ」

これについては保育の魅力を知ってもらい、現任者の離職防止、並びに保育養成校学生の新規採用につながるよう企画したが、コロナウィルスの影響により実施はかなわなかった。一昨年には会場での集合形式で実施し、非常に効果の期待できる内容であったが、コロナウィルスの影響により昨年は動画の配信という形でマルシェを実施し、本年もその続編として企画していたが、コロナウィルスの影響が非常に大きく、関係者の撮影スケジュールさえも確保が難しい状況が発生した。企画目的やその効果は実感できるものではあるが、こうした実態を鑑み、内容、方法については再度検討の必要がある。

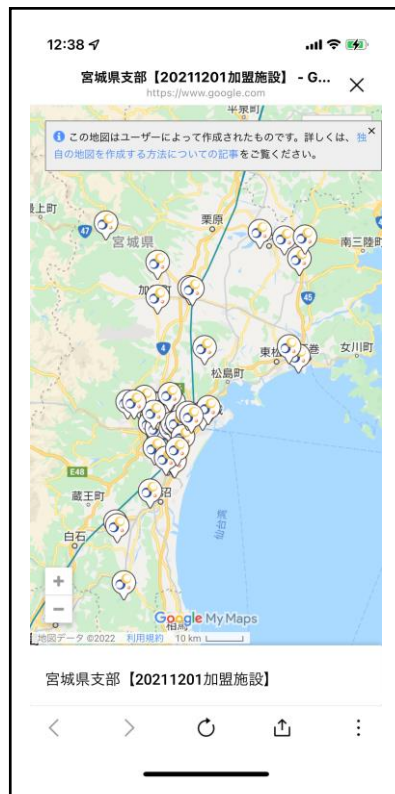
イ、WEB研修「メンタルふえす」

これについても上記と同じくコロナの影響により中止となる。このテーマは当事業の目的趣旨に非常に密接かつ直接的に関係しているテーマでもあるので、現場ニーズを掘り起こしながら効果的で実行可能な方法を模索していきたい。

ウ、アプリを活用した学生及び幼稚園教諭と 施設のマッチング

これは外部委託を図り“LINE公式アカウント”という形で手段を確立することができた。運用イメージとしてはまさに保育養成校学生のニーズと幼稚園等施設のニーズをマッチングすることにより、システム構造としても既存の採用構造よりもより気軽に、タイムリーに、直接的につなげることができる構造が確立できた。

※LINE 公式アカウントスマホ画像



このシステムによって現場状況の発信も可能となり、上記のマルシェや研修などもより広く周知し、相乗効果を期待できるものであった。

しかし、実施過程で大きな問題に直面する。学生の登録促進が図りにくい現状があった。現在学生招致を図る様々な機関が同様の方法を取り、世に乱立している実態があり、これらアプリの登録へ抵抗感が生まれている。養成校としても安易な登録をしないように指導しているとのことで、思惑通りに学生登録が進んでいないのが実際である。

本取り組みは登録者の数が多いほど効果を発揮する特性を持つため、今後の活用とその他事業実施時の案内など継続的な広報活動が必要である。

令和4年度には学生向けオンライン就活セミナー等を実施し、LINE公式アカウントの活用幅を持たせられるよう工夫する計画である。

エ、人材確保、離職防止に関するアンケート実施、並びにアンケート結果を踏まえたフリーペーパー等情報発信

これについてもコロナの影響により未実施である。離職防止や人材確保における実態把握には欠かせないものであるため、今後の実施についても検討していきたい。

オ、オンラインセミナーの開催（保育マルシェ代替）

これは計画時点では予定していなかったが、実施メンバーの立案によって実行する。離職防止や人材確保の実態把握と情報共有の観点から、運営マネジメントをどのように考え、どのように工夫しているかなど参考になる代表者に対談形式で協議してもらい、率直な意見も含めWEBで配信する。運営者ならでは視点や、具体的な工夫などが話題になることで参加者にとっては離職防止、人材確保の参考例として非常に効果的であったのではないかと推察される。コロナ禍における当事業の取り組み方法としても有効であり、また、コロナ禍でなくともニーズのある実施方法でもあったため、大きな可能性を感じている。

※オンラインセミナーの様子



カ、ICT イベントの開催

保育現場における働き方改革のもっともメジャーな方法の一つとして ICT 化が挙げられる。行政からも ICT 化における補助金事業が創設され、導入を検討する法人施設も多くなってきている。しかし、ICT 化の過渡期であるためか、導入によってかえって業務負担が増えてしまう施設も多く、問題と課題が発生している。自分の法人施設に合ったシステムを選択、導入をすることが ICT 化のカギであり、ひいては働き方改革の重要な要素であることから、保育に特化したシステムを、複数の取り扱い業者にプレゼン、質問できる機会を設け、マッチングを図るイベントを行う。オンラインも活用し、対面とのハイブリットで開催をしたが、参加者はコロナ禍ということもあり想定よりも少なかった。しかし、これからの取り組みとして非常に有意義であったと感じる。

ICT 保育・教育施設向け 情報交換会 in宮城
 2021年11月18日(木)
 9:25~18:00 ※9時間場
 会場：リコージャパン(株) 宮城支社
 仙台五橋事業所(アーバンネット五橋ビル)
 定員：ご来場参加 50名/オンライン参加 50名
 主催：全国認定こども園協会 宮城県支部
 事前お申し込み制
 ※セミナーはオンラインでもご参加可能です。お申し込み時に、オンライン参加希望と選択し、配信URLをお送りいたします。

セミナータイムテーブル

9:00	開会式
9:15	主幹講演 宮城支社
9:30	セミナー一般セッション
9:30-10:00	セミナー一般セッション
10:10-10:40	セミナー一般セッション
10:50-11:20	セミナー一般セッション1
11:30-12:00	セミナー一般セッション2
13:00-13:30	セミナー一般セッション
13:40-14:10	セミナー一般セッション
14:20-14:50	セミナー一般セッション
15:00-15:30	セミナー一般セッション
15:40-16:10	セミナー一般セッション
16:20-16:50	セミナー一般セッション
17:00-17:30	セミナー一般セッション
17:40-18:00	セミナー一般セッション

出展 ICTシステム

- はいチーエス1システム**：はいチーエスシステムは教育施設向けに、様々なニーズに対応できるシステムを提供しています。
- おかりえん**：おかりえんは、保育現場での業務効率化をサポートするシステムです。
- DMON**：DMONは、保育現場での業務効率化をサポートするシステムです。
- Kids' View**：Kids' Viewは、保育現場での業務効率化をサポートするシステムです。
- おかりえん**：おかりえんは、保育現場での業務効率化をサポートするシステムです。

会場のご案内

会場：リコージャパン(株) 宮城支社
 仙台五橋事業所(アーバンネット五橋ビル)
 〒981-8501 宮城県仙台市青葉区五橋1-1-1
 会場までのアクセス方法
 仙台駅より徒歩15分
 仙台五橋駅より徒歩5分
 仙台五橋バス停より徒歩5分

お申し込みURL
<https://event.ricoh.co.jp/public/seminar/view/13088/>

お問い合わせ先
 全国認定こども園協会事務局
 Mail: miyaginintestedomo@gmail.com

お申し込みURL
<https://event.ricoh.co.jp/public/seminar/view/13088/>

会場のご案内

会場：リコージャパン(株) 宮城支社
 仙台五橋事業所(アーバンネット五橋ビル)
 〒981-8501 宮城県仙台市青葉区五橋1-1-1
 会場までのアクセス方法
 仙台駅より徒歩15分
 仙台五橋駅より徒歩5分
 仙台五橋バス停より徒歩5分

3, 成果と課題

冒頭の実施背景の通り、コロナ禍における問題点は多分にあり、実施においても課題解決が非常に難しい状態であった。同時にコロナ禍における環境やリテラシーの変化に新たな活路と可能性を見出すこともできた。WEBでの実施、動画での配信、アプリの活用などはコロナ以前は方法論として知っていても、とても活用などは検討できず、環境構築もままならないのが現実的な状況ではあったが、コロナ禍を生き抜く術として必要に迫られる形で、社会インフラとなり、市民権を得る形となった。それらをインフラとしながら発信をすることはコロナ禍に限定されてしまう可能性もあったが、だからこそ令和3年度に実施する意味があると考えられた。また、それはコロナ後であっても有効に活用されることでより良い環境になっていくと期待できるし、人材確保においてはより一層その様相にどう順応できるかが、人材を確保したい施設側でも、働き手にとっても大きな課題と考えられる。

この度の実施事業内容ではすべてのものがWEBを活用しており、各種方面への問題提起となったのではないかと感じている。また、実施方法のみならず、内容についても、WEB環境であったからこそできたことも多分にあった。LINE公式アカウントについては構造OSがこれまでになかった視点で保育施設や地域などを検討することができ、また、求職者と採用者をつなぐ手段として、これまでになかった効果を期待できるものであった。しかし、一方で現代社会のインフラとなりつつ過渡期であるが故の乱用と制御の問題に対し、現状のコントロール方法が非常に限定的、厳格であるがゆえになかなか活用範囲拡大につながりにくくなってしまいう問題も期せずして発生してしまい、今後の課題として残っている。

オンラインセミナーについては新しい議論の形としても効果的であったが、これは内容についても非常に興味深いものであったのではないかと感じている。というのも、参加者数こそ募集期間の短さから少数であったものの、参加者の所属を見ると、遠方の行政窓口担当者も参加されており、もはや施設の運営と人材確保に関する問題意識は地方行政の窓口担当者までに及んでおり、関心の高さ、広さがうかがえる。議論内容も、具体的にどのように人材を確保するか、ひいてはどのようにやって経営してるの？ということに関して生々しい実態に基づく話や、幼稚園寄りの運営構造であるか、保育所寄りの考え方であるかなどによっても目指すところや意識するところ、給付構造における加算の適応のさせ方まで微妙な違いが見え、聞く人によっては即効性の高い内容であったのではないかと考えられる。

ICTイベントについては着眼点として非常に意味あるものであったと今でも感じているが、振り返ってみれば“すでにICT化の進んでいる施設の人間”として感じる問題、課題に対する方法であったことも否めない。参加対象としていたのは“これからICT化を図る施設”であったことから、問題と課題に対する価値共有が意図したものと異なり、参加人数が伸び悩んだ原因でもあるとも推察される。すでにICT構造を活用している立場から言わせていただくと、ICT化は運営方法や保育内容、理念とも直結しており、それらに対して選択肢はあるものの“完璧に合致するものはない”と考えなくてはならない。ICTシステ

ムの普及過渡期にある今の時代において、数多くのシステム業者が素晴らしい製品を作られているが、一施設のオーダーメイドで作っているシステムではないので、完璧な合致はのぞめない。だからこそ“自分たちのしたいこと、困っていること”に照らし合わせて一番“近いもの”を厳選する必要がある。これに失敗するとせっかく効率を求めて導入したICTも逆に負担になってしまったり、使い物にならなくなってしまう。

それらを防ぐためにはシステムの構造と目指すもの、特徴と長所短所を把握したうえで“比較検討”することが非常に重要な“導入までの作業工程”になるが、かなりの割合でこの工程が行われずに導入してしまっているケースが多い。この度のイベントはシステム業者が複数社集まり製品説明と相談ができるイベントであったため、期待する参加の仕方としては前述の部分を見定めていただくことであった。また、すでに検討が済んでおり、一つの業者に絞って話を聞きたいという人にとっても参加しやすい形のものでもあった。

参加すれば非常に効果が高いことは確信の持てる内容ではあったが、当日の参加人数はあまり伸びず、それについては期待を裏切るものでもあった。

原因としては設定時期の問題、案内周知の問題などもあるが、上記の意図、目的が伝わりにくい、あるいは、イベントスタイルが“対面”、“WEB”のハイブリットプレゼンテーション、さらに相談会がセット、という「今までになく、なじみにくい」部分も否めなかったのではないかと考えられる。

しかし試みとしては将来性を感じることができたし、行政担当者からICT化の推進としてご賛同いただいた点も大きな進歩である。

ICT化は人材確保に直接的な効果を発揮するものではないが、人材確保の障害となる原因の一つに“働き方”は必ずあげられるし、ICT化が働き方を改善する一つの手段であることは間違いない。この度のイベントとしての効果は微々たるものであったが、将来性と問題提起としての効果は多分に発揮できていたのではないかと感じている。

以上計画していたもの全体を項目ごとに記載したが、全体的にやはりコロナにおける弊害は否めない。コロナ禍における実施方法を課題として今後検討することが必要であるが、実施できたものの中にはそれらをクリアできているものもあり、今後の可能性を強く感じる。直接的に離職防止や人材確保につながったかどうかは定かではないが、将来性を期待しつつ問題点を分析し課題に取り組んでいきたい。